

参加申込み規定

参加料（来場・ライブ配信 共通価格・税込）

(公社)日本プラントメンテナンス協会 会員(正会員、事業所会員) (一社)日本能率協会 法人会員 協賛団体会員	1日のみ	33,000円 / 1名
	両日	44,000円 / 1名
一 般	1日のみ	44,000円 / 1名
	両日	55,000円 / 1名

5名以上のお申込みの場合、料金総額から30%OFF

※参加料には、テキスト（資料）代が含まれております。昼食の提供はございません

● 会員ご入会の有無につきましては、下記HPにてご確認ください

公益社団法人日本プラントメンテナンス協会HP
⇒<https://www.jipm.or.jp/company/memberlist/>

一般社団法人日本能率協会HP
⇒<https://list.jma-member.com/>

会員以外の方は、この機会にぜひ小会会員へのご入会をご検討ください。

参加申込方法・参加料支払方法

- ・派遣窓口で担当者、および参加者が「参加申込み規定」に同意したうえで、下記WEBサイトよりお申し込みください。FAXでのお申し込みはできません
- ・参加申込みは開催前日まで受け付けますがテキストなどご用意できないこともございますので、お早めにお申し込みください
- ・開催の約2週間前より派遣窓口で担当者様あてに請求書を送付しますので、小会指定の銀行口座にお振込みください。なお、振込み手数料は貴社にてご負担ください



お申込みはWEBサイトから

<http://www.jipm.or.jp/>

セミナー情報＞発表大会

＞第60回 設備管理全国大会

ライブ配信でのご参加について

- ・ライブ配信は、WEB会議システム「Zoom」を利用します。お申し込み前に下記QRコードまたはURL「手順」の接続テストにて視聴できることを必ずご確認ください



<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/115002262083>

- ・参加者側のネットワーク環境に伴う視聴の不具合に関して、小会ではその責任を負いかねます
- ・参加者のメールアドレスあてに参加URLを開催の1週間前にお送りします

■ 免責事項

天災地変や伝染病の流行、研修会場・輸送等の機関のサービスの停止、官公庁の指示等の小会が管理できない事由により研修内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、小会ではその責任を負いかねます。

■ 個人情報に関する取り扱いについて

ご記入いただいた個人情報は、当セミナーの運営・管理・資料送付、出欠の確認等に利用いたします。また、後日、小会より事業・サービス・セミナー等のご案内を送付させていただく場合がございます。小会は、ご提供いただいた個人情報を小会のプライバシーポリシーに則って安全対策を施し適切に管理いたします。小会のプライバシーポリシー、個人情報の開示・訂正・削除等の詳細につきましては、小会ホームページ（<http://www.jipm.or.jp/>）をご覧ください。

会場

浜松町コンベンションホール&Hybridスタジオ

(東京都港区浜松町二丁目3番1号 ニッセイ浜松町クレアタワー5F・6F)



交通のご案内

都営地下鉄

大江戸線・浅草線大門駅
B5出口直結

JR・東京モノレール
浜松町駅 徒歩2分

感染予防の対策について

- ・厚生労働省などの指針に従って感染予防の対策を実施いたします

新型コロナウイルス
感染拡大の防止対策のうえ
開催いたします。



防止対策
について

<http://www.jipm.or.jp/offer/?id=1594282913-296511>

お願い・お断り

- ・録音・録画・撮影、およびSNSへの投稿は厳禁です。守られなかった場合、著作権・肖像権侵害として対処することがございます。また今後の参加をお断りすることがございます
- ・下記の規定によりキャンセル料を申し受けますのであらかじめご了承ください

開催当日および前日の参加取消し……………参加料全額
(参加料入金済の場合、返金しません)

開催の2日前～7日前の参加取消し……………参加料の30%
(参加料入金済みの場合、70%を返金いたします)

※いずれも土日曜・祝祭日は、上記日数に含まれません

■ 講座内容についての問合せ先

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会 普及推進部

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-3 神保町SFⅢビル 5 階

電話：0120-451-466（または03-6865-6081）

E-mail：EVENT@jipm.or.jp

設備管理を制する者はモノづくりを制す！

大会テーマ

デジタル時代の設備管理の「在り方」
次世代に残す「魂・想い・技術」
未来の設備管理の「あるべき姿」

設備管理・技術カンファレンス

第60回

設備管理全国大会



(TPM50周年・JIPM40周年連動企画)

日程

2021年12月2日(木)▶▶▶3日(金)

会場

浜松町コンベンションホール
&Hybrid スタジオ

参加
方法

来場※ or ライブ視聴(Zoom ウェビナー)



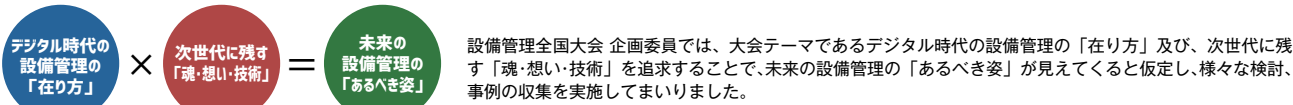
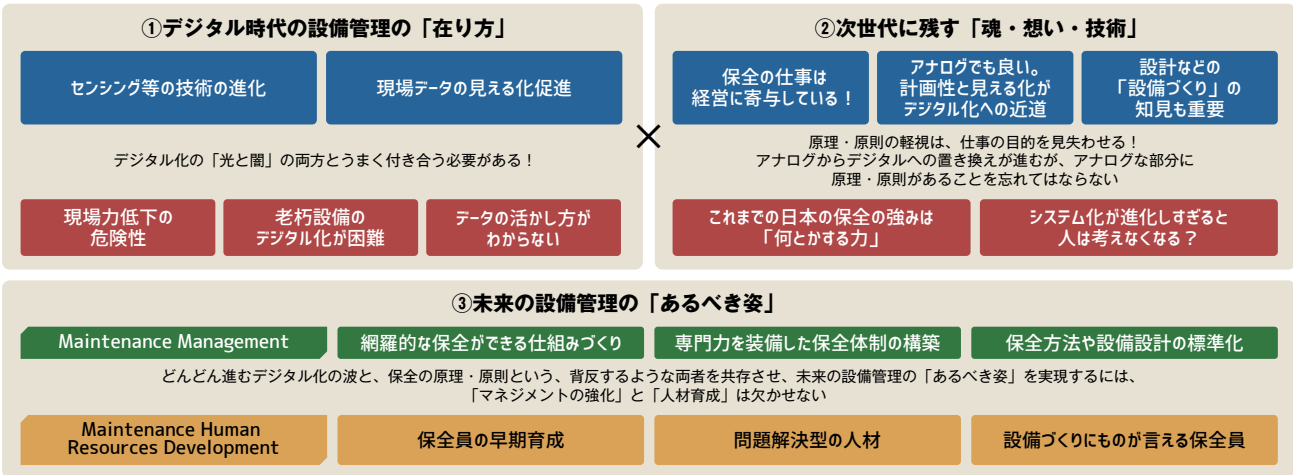
公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

※新型コロナウイルスの感染状況により変更の可能性がございます
※定員がございます

設備管理全国大会とは？

本大会は、設備管理における本格的な技術発表会として、今年の開催で 60 回目を迎える歴史ある大会です。
保全・工務・設計・生産技術・製造等の管理者・スタッフ・経営幹部の方々の設備管理に関する意識向上、進化に寄与すべくプログラムの構成をおこなっております。
設備管理に関わる方々の地位向上、設備管理の課題解決の一助になれば幸いです。

設備管理全国大会 企画委員会では、大会テーマである①デジタル時代の設備管理の「在り方」および、②次世代に残す「魂・想い・技術」を追求することで、③未来の設備管理の「あるべき姿」が見えてくると仮定し、議論してまいりました。



- デジタル時代の設備管理の「在り方」
- ・センシング技術の進化は、設備の状態を高度かつリアルタイムに見える化する
 - ・デジタル化は、現場力の低下の危険性ははらんでいる
 - ・データを見る化することが目的でない。見える化したデータをどのように活かすかが重要
 - ・老朽化設備に対するデジタル化は非常に困難
- デジタル化の光とデジタル化による闇の両方とうまく付き合う必要がある
- 次世代に残す「魂・想い・技術」
- ・保全には、設計の知識も必要である
 - ・デジタルな設備管理の実施のためには、アナログな設備管理ができてることが大前提である
 - ・CBMの実現はゴールでない。MTBFを延長させ、完璧な周期でのTBM実施を目指す姿
 - ・保全の仕事は経営に寄与している
 - ・システム化するとそれだけしかできない人になる。
 - ・何とかしてやらなければならないというエネルギーが低下する
- 時が進むにつれて全体的にアナログからデジタルへの置き換えが発生するが、そのアナログな部分に原理・原則があることを忘れてはならない
- 原理・原則の軽視は、目指している効率的な仕事の実現を遅らせ、人々のエネルギー低下も引き起こす
- 未来の設備管理の「あるべき姿」
- 【マネジメント力の強化】
- ・専門力を致した保全体制の構築
 - ・網羅的な保全の必要性
 - ・設備 / メンテナンスの標準化
- 【人材育成】
- ・設備導入時にものが言える保全員育成
 - ・保全員の早期育成
 - ・問題解決型の人材育成
- どんどん進むデジタル化の波と、保全の原理・原則という、相反するような両者を共存させ、未来の設備管理の「あるべき姿」を考える上で、【マネジメント力の強化】と【人材育成】は欠かせない

大会記念動画

60 回記念大会企画として、首都高技術（株）永田様（2020 年 12 月時点）にインタビューを行いました。
大会テーマである「①デジタル時代の設備管理の在り方」「②次世代に残す魂・想い・技術」「③未来の設備管理のあるべき姿」の 3 点に関する取組事例や考えをお聞きしました。



大会記念動画

「①デジタル時代の設備管理の在り方」
「②次世代に残す魂・想い・技術」
「③未来の設備管理のあるべき姿」



大会企画委員

委員長：二階堂 英幸（JFE スチール株式会社）
委員：半田 明智（東レ株式会社）
委員：重藤 祐二（ボッシュ株式会社）
委員：澤江 孝浩（出光興産株式会社）
委員：加藤 浩史（日産自動車株式会社）
委員：鈴置 智（日本プラントメンテナンス協会）
委員：伊藤 透（株式会社デンソー）
委員：吉田 信行（富士フイルムエンジニアリング株式会社）
委員：松田 善介（日本プラントメンテナンス協会）

12月2日(木) 1日目プログラム

9:30	開催の挨拶	
9:45 ▼ 10:15	10 年後の設備管理に向けて 二階堂 英幸 設備管理全国大会 企画委員長 JFE スチール 株式会社 顧問	本大会では、各社の設備管理のキーパーソンで組織される「企画委員会」を設置し、設備管理のトレンドや今後の方向性などを議論・共有し、大会企画等に活かしている。今回はこの議論を基に、10 年後の設備管理に向けた方向性を企画委員会からのメッセージとして、紹介する。
10:20 ▼ 11:20	未来も支える「保全人財育成」の考え方 佐藤 信義 公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会 主幹研究員	保全業務は「＝修理」という理解がされ、社内で正当な評価がされていないケースが多々ある。しかし生産の全きを保つために、設備の状態を隈なく観察し、故障の再発防止・寿命延長・寿命の定量的把握等を行うのは保全部署であり、目的を達成するために必要な専門力を駆使した「保全エンジニア」の育成が今後も重要である。自らの専門力や所属する組織の専門力、また社内別組織や社外との連携も含めた、人財育成の考え方についてこの機会に紹介する。
11:30 ▼ 12:30	「人材育成と次世代への技能伝承」 ーICT を活用した生産性向上と技能伝承についてー 仲村 公孝 株式会社 高田工業所 技術本部 執行役員	モノづくりの会社として人材育成は重要テーマである。当社の長年の取組みとして、新入社員早期育成のための『全社共通基礎技能教育』、若手のモチベーションを高める『技能オリンピック全社大会』などを紹介する。 併せて、昨今の取組みとして、ICT を活用した現場工事の効率化や技能伝承の取組み事例を紹介する。
昼 休 憩（昼食の提供はございません）		
13:30 ▼ 14:30	Creating the Path to Sustainability with TPM: NS-SUS Experiences ～ 2020 年度 TPM ワールドクラス賞 活動紹介～ 調整中 NS-Siam United Steel Co., Ltd.（日本製鉄株式会社連結子会社 タイ）	NS-SUS 社における TPM 活動は、2005 年にキックオフし、現在も継続的な活動を行なっている。2012 年からは TPM 活動にトヨタ生産方式（TPS）を融合した活動による徹底的なロス改善と生産効率改善を図ってきた。さらに 2018 年からは、デジタル技術の積極導入など、新たな取組みを加えている。持続的な成長が出来る企業体質の構築を目指し、取り組んできた活動を紹介する。
14:40 ▼ 15:40	IoT 利用によるリアルタイムな現場ロスの顕在化 ～現場目線の IoT 生産革新研究会 活動より～ 福田 好郎 法政大学 名誉教授 現場目線の IoT 生産革新研究会 代表 宮崎 健 ジヤトコ株式会社 デジタルイノベーション推進部 主担	JIPM が主催する「現場目線の IoT 生産革新研究会」では、現場の問題・課題に対し、IoT 等のデジタルを活用し、解決につなげられないかを自動車業界に従事するメンバーで 2018 年度より議論してきた。 とくに製造現場におけるロスの顕在化は改善のために重要な指標であり、統計的な処理がなされて、TPM の推進や改善に貢献してきた。 近年では、IoT の普及やセンサー類の進化により、安価にリアルタイムでロスを把握することができるようになりつつある。リアルタイムにロスを把握することによって、新たなロスを発見し、改善に結び付けることができる。また、設備だけでなく、人・材料・エネルギーなどのロス撲滅に取り組むことも、可能になってきた。これらの考え方や事例について、この機会に紹介する。
15:50 ▼ 16:50	故障 / 良品解析による高信頼性設備づくり 稲付 卓郎 株式会社 デンソー 工機部 設備革新推進室 モジュール構造推進課 担当課長	当社は、大きな市場変化（製品・生産）にも即応可能な、モジュール型の設備づくりを推進している。課題は、原単位の高い信頼性と保全性確保である。実現に向けて、製品づくりをヒントにした信頼性解析部隊の創設、全社 TPM 部門・社外団体とのネットワーク活動を紹介する。

12月3日(金) 2日目プログラム

10:00 ▼ 11:00	先進技術を活用した次世代工場構築 江崎 宣雄 三井化学 株式会社 生産技術高度化推進室 室長	国内化学プラントでは設備の経年劣化の拡大、ベテランの減少、労働力不足等の課題を抱えており、運転・保全の高度化への要請は高まっている。三井化学では人間の能力を引き出す次世代工場の構築を目指し、先進技術を活用した検討を進めており、その事例を紹介する。
11:10 ▼ 12:10	保全改革におけるDX推進の取組み ～ 設備管理における業務改革 ～ 石野 昌裕 富士フイルムエンジニアリング 株式会社 ビジネス開発事業部	富士フイルムでは、生産設備に対して、保全標準と設備の状態を元に保全計画を立て、保全活動を実施し、その結果から保全計画、保全標準を見直す予兆保全を展開している。このPDCA サイクルの中で、デジタル技術を駆使しデータ収集・分析を行っており、本発表では、保全活動の DX 推進に向けたコンセプトとデジタル化の事例を紹介する。
昼 休 憩（昼食の提供はございません）		
13:10 ▼ 14:10	オントロジー技術による知識の体系化と設備管理における活用 浅野 一哉 JFE テクノリサーチ 株式会社 フェロー	オントロジーとは、専門的な知識やノウハウをツリー状に記述して体系化する手法である。機械の本来の機能、異常発生メカニズムと対処方法をオントロジーで記述することにより、設備管理の知識を簡潔明瞭な形で可視化し、トラブルへの迅速対応、技能伝承、教育などに活用する方法とそのためのシステムについて紹介する。
14:20 ▼ 15:20	次世代TPM® “100%良品”をつくり続ける設備を実現するための仕組みづくり提案 鷺谷 武明 次世代 TPM® 品質と設備管理研究会 幹事	グローバルで「ものづくり」を展開するためには、「品質」は必要不可欠な要素である。品質を真に設備でつくり込むためには、設備の生まれから廃却までのライフサイクルを通じた良品条件の設定を鏡に、最適な設備・運転条件設定・保全およびそれらを実行する人の育成と仕組みの構築が重要となる。本発表では、設備管理の視点から 100% 良品生産を実現する仕組みづくりについて、研究会における議論をもとに提案する。
15:30 ▼ 16:30	今だから伝えたい「保全の心得」 古井 一彦 トヨタ自動車 株式会社 グローバル生産推進センター 保全マネジメント・支援室 室長	1980 年代後半以降、海外事業体の急拡大に伴い現地ににて保全コーディネータによる保全の心得を含めた技能育成を実施してきた。しかし、ここ数年でメンバーの入れ替りもあり、「心」が薄れてきていることを実感。そこで、保全活動にあたる際の心得を改めて明文化した上で、グローバルに展開を進めている。今回は、その取組みについて紹介し、同様の課題をお持ちであろう皆様と対応策について意見交換させて頂きたい。
16:30 ▼ 16:40	大会のまとめ	